

拓殖大学 サンプル問題

簿 記

- 試験時間 60 分
- 配 点 100 点
- 出題範囲 「簿記」の内容から出題
- 対象試験区分
 - ・ 10/26 (日) 総合型選抜Ⅰ期 (自己推薦方式)
 - ・ 11/23 (日) 総合型選抜Ⅱ期 (自己推薦方式)

本問題は、2026 年度入試から実施される科目「簿記」のサンプル問題として作成したものです。なお、実施される試験問題の形式や内容については、予告なく変更する場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

「簿記」サンプル問題解説

出題方針

出題された問題は、設問〔Ⅰ〕および設問〔Ⅱ〕については、全商簿記実務検定2級レベルの理解度を確認することを主な目的としています。また、問題3および問題4については、全商簿記実務検定2級に合格した上で、1級への勉強を進めている途上である者を想定し、2級よりもやや難しいレベルの理解度を確認することを主な目的としています。

出題形式

設問〔Ⅰ〕および設問〔Ⅱ〕問1は仕訳問題です。設問〔Ⅱ〕問2は、損益計算書の穴埋め問題です。設問〔Ⅲ〕は、仕訳と連結精算表を出題しています。最後に、設問〔Ⅳ〕は、問1で総合原価計算の計算、問2で直接原価計算とCVP分析の計算問題です。

出題内容

上記の説明と重複しますが、設問〔Ⅰ〕は、仕訳問題です。詳細は下記の設問解説をご覧ください。

設問〔Ⅱ〕問2は財務諸表の作成を出題しています。仕訳を正しく行った上で、それを集計し、財務諸表の区分にあわせて記入できるかを問う問題です。

設問〔Ⅲ〕は買収時の連結財務諸表の作成を出題しています。買収時の会計処理と、簡単な連結精算表の作成を出題しています。

設問〔Ⅳ〕は工業簿記・原価計算の問題です。問1は基礎的な総合原価計算を出題しています。問2は基礎的な直接原価計算とCVP分析です。

設問解説

設問〔1〕

- (1) 仮払消費税と仮受消費税を相殺した額を未払消費税に計上する。
- (2) 商品代金の2%を支払手数料として計上し、売上と支払手数料の差額はクレジット売掛金になる。
- (3) 土地は前期末の決算で時価評価されるものではないため、売却損益は売却価額と取得原価の差額である。
- (4) 資本金としなかった部分は資本準備金にする。
- (5) 再振替仕訳は、前期末の決算整理仕訳の逆仕訳である。

設問〔2〕

問1

1. 売上債権としては、本問では受取手形と売掛金が該当する。差額補充法であるので、計上すべき貸倒引当金の金額を求めたのち、すでに計上されている分を控除して、当期の貸倒引当金繰入を求める。
2. 期首の棚卸資産に関する仕訳も必要である。
3. 定率法の場合には、取得原価に償却率を乗じるのではなく、「取得原価－減価償却累計額」に償却率を乗じる。
4. 未使用の切手は、貯蔵品として資産計上する。
5. 1年分の保険料を支払っているので、決算整理前残高試算表の保険料の金額のうち、次期の分（6ヶ月分）を前払費用（前払保険料）とする。

6. 当期分の利息が計上されていないので、決算にあたり9ヶ月分の利息を計上する。
7. 決算整理前残高試算表に仮払法人税等があるため、法人税等と仮払法人税等の差額が未払法人税等になる。

問2

問1の仕訳を決算整理前残高試算表に反映させれば良いのであるが、解答は勘定式ではなく報告式の損益計算書になっている。しかし、勘定科目の穴埋めはないので、あてはまる金額を入れていくだけで良い。

設問〔3〕

- (1) 投資額（子会社株式の額）が1,000,000円で、買収時の子会社の純資産は1,100,000円である。よって、差額の100,000円がのれんとなる。
- (2) (1)の仕訳を修正消去の列に入れ、集計すれば良い。なお、Aはのれん、Bは非支配株主持分である。

設問〔4〕

問1

- (1) 期末仕掛品原価

直接材料費 $57,000 \text{ 円} \div 300 \text{ 個} \times 100 \text{ 個} = 19,000 \text{ 円}$

加工費 $34,100 \text{ 円} \div 310 \text{ 個} \times 30 \text{ 個} = 3,300 \text{ 円}$

完成品総合原価

直接材料費 $35,000 \text{ 円} + 57,000 \text{ 円} - 19,000 \text{ 円} = 73,000 \text{ 円}$

加工費 $12,340 \text{ 円} + 34,100 \text{ 円} - 3,300 \text{ 円} = 43,140 \text{ 円}$

完成品単位原価

$116,140 \text{ 円} \div 400 \text{ 個} = 290 \text{ 円}$

- (2) 期末仕掛品原価

直接材料費 $(35,000 \text{ 円} + 57,000 \text{ 円}) \div (200 \text{ 個} + 300 \text{ 個}) \times 100 \text{ 個} = 18,400 \text{ 円}$

加工費 $(12,340 \text{ 円} + 34,100 \text{ 円}) \div (120 \text{ 個} + 310 \text{ 個}) \times 30 \text{ 個} = 3,240 \text{ 円}$

完成品総合原価

直接材料費 $(35,000 \text{ 円} + 57,000 \text{ 円}) \div (200 \text{ 個} + 300 \text{ 個}) \times 400 \text{ 個} = 73,600 \text{ 円}$

加工費 $(12,340 \text{ 円} + 34,100 \text{ 円}) \div (120 \text{ 個} + 310 \text{ 個}) \times 400 \text{ 個} = 43,200 \text{ 円}$

完成品単位原価

$116,800 \text{ 円} \div 400 \text{ 個} = 292 \text{ 円}$

問2

- (1) $\text{売上高} - 0.65 \times \text{売上高} - 7,000,000 = 0$ よって、(損益分岐点)売上高は20,000,000円

- (2) $\text{売上高} - 0.65 \times \text{売上高} - 7,000,000 = 1,400,000$ よって、24,000,000円

- (3) $1,000,000 - 0.65 \times 1,000,000 = 350,000$

- (4) $18,000,000 - 0.65 \times 18,000,000 - \text{削減後の固定費} = 0$

よって、削減後の固定費は6,300,000円と求められる。削減額が問われているため、答えは700,000円となる。

「簿記」サンプル問題

(注意) 商学部経営学科・国際ビジネス学科および国際学部の受験生は以下の設問に解答すること。

設問〔1〕、設問〔2〕問1・問2

商学部会計学科の受験生は以下の設問に解答すること。

設問〔1〕、設問〔2〕問2、設問〔3〕、設問〔4〕問1・問2

設問〔1〕 **【全受験生】** 次の取引の仕訳を行いなさい。なお、勘定科目は、次の中から最も適切なものを選ぶこと。

当座預金	売 掛 金	クレジット売掛金	仮払消費税
未収入金	前 払 費 用	土 地	減価償却累計額
未 払 金	仮受消費税	未払消費税	未払法人税等
資 本 金	資本準備金	利益準備金	繰越利益剰余金
売 上	固定資産売却益	減価償却費	支払手数料
支払家賃	有価証券売却損	固定資産売却損	

- (1) 決算を行い、納付すべき消費税の額を算定した。なお、本年度の消費税の仮払分は¥500,000、仮受分は¥580,000であり、消費税の記帳は税抜方式により行っている。
- (2) 商品¥300,000をクレジット払いの条件で販売した。なお、販売代金の2%にあたる金額を信販会社へのクレジット手数料として販売時に計上し、信販会社に対する債権から控除する。
- (3) 2025年6月10日、土地(取得原価800,000円、前期末時価840,000円)を820,000円で売却した。代金は月末に振り込まれる予定である。
- (4) 拓殖株式会社は、会社設立にあたり、株式1,000株を1株の発行価額¥1,600で発行し、全株式について引き受け・払い込みを受け、払込金額を当座預金に預け入れた。なお、1株のうち¥800は資本金に計上しないことにした。
- (5) 前期末に前払いの家賃を¥50,000資産計上していたが、当期の期首において再振替仕訳を行った。

設問〔2〕

問1 **【商学部経営学科・国際ビジネス学科、国際学部の受験生】** [資料Ⅱ] に基づき、決算整理仕訳を答えなさい。

問2 **【全受験生】** 次に示した [資料Ⅰ] および [資料Ⅱ] にもとづいて作成された [資料Ⅲ] の損益計算書中の空欄A～Jに当てはまる適切な勘定科目または数値を答えなさい。なお、当期は2025年4月1日から2026年3月31日までの1年間である。

[資料Ⅰ] 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

2026年3月31日

(単位：円)

借 方	勘定科目	貸 方
60,000	現 金	
1,250,000	普 通 預 金	
1,500,000	当 座 預 金	
1,800,000	受 取 手 形	
1,200,000	売 掛 金	
1,250,000	繰 越 商 品	
200,000	仮 払 法 人 税 等	
8,000,000	建 物	
6,000,000	備 品	
	貸 倒 引 当 金	40,000
	建物減価償却累計額	3,840,000
	備品減価償却累計額	1,680,000
	買 掛 金	900,000
	借 入 金	5,000,000
	資 本 金	4,000,000
	繰越利益剰余金	3,515,000
	売 上	11,000,000
	受 取 利 息	25,000
6,000,000	仕 入	
1,200,000	給 料	
800,000	支 払 家 賃	
240,000	保 険 料	
500,000	通 信 費	
30,000,000		30,000,000

〔資料Ⅱ〕決算整理事項

1. 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定にあたっては差額補充法を用いる。
2. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。
 帳簿棚卸高： 数量 300 個、帳 簿 価 額 @¥5,000
3. 有形固定資産について、下記の方法により減価償却を行う。
 建物： 耐用年数 30 年、残存価額は取得原価の 10%とし、定額法により計算する。
 備品： 定率法（償却率 20%）により計算する。
4. 期中に購入した切手はすべて通信費として処理しているが、期末において未使用の郵便切手が ¥50,000 ある。
5. 保険料は 2025 年 10 月 1 日に支払ったものであり、契約期間は 2025 年 10 月 1 日からの 1 年間である。
6. 借入金 は 当期の 7 月 1 日に借入れたものであり、借入期間は 5 年（一括返済）、利率年 4%、利払日は年 1 回（6 月 30 日）である。
7. 当期の法人税等とすべき額は ¥481,000 である。

[資料Ⅲ] 損益計算書

損益計算書

自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日

(単位：円)

I	売上高		11,000,000
II	売上原価		
	1. 期首商品棚卸高	(A)	
	2. 当期商品仕入高	()	
	合 計	()	
	3. 期末商品棚卸高	(B)	()
	売上総利益		()
III	販売費及び一般管理費		
	1. 給 料	1,200,000	
	2. 支 払 家 賃	800,000	
	3. 保 険 料	(C)	
	4. 通 信 費	(D)	
	5. 貸倒引当金繰入	(E)	
	6. 減 価 償 却 費	(F)	()
	営業利益		()
IV	営業外収益		
	1. 受取利息		25,000
V	営業外費用		
	1. 支払利息	(G)	
	経常利益	()	
	税引前当期純利益	()	
	法人税等	()	
	当期純利益	(H)	

設問〔3〕 **【商学部会計学科の受験生】** 拓殖株式会社（決算日は3月末日）は、2025年4月1日に文京株式会社の発行済株式総数の70%を1,000,000円で取得し、支配を獲得した。同日における文京株式会社の諸資産、諸負債の簿価と時価は一致している。次の資料にもとづいて、各問に答えなさい。

〔資 料〕

連結精算表

2025年4月1日

（単位：円）

	拓殖株式会社		文京株式会社		修正消去		連結貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
諸 資 産	8,000,000		2,600,000					
子会社株式	1,000,000							
（ A ）							（ C ）	
諸 負 債		2,700,000		1,500,000				
資 本 金		5,000,000		1,000,000				（ D ）
利益剰余金		1,300,000		100,000				
（ B ）								（ E ）
	9,000,000	9,000,000	2,400,000	2,600,000				

- （1）支配獲得時の連結財務諸表作成のための仕訳（投資と資本の消去仕訳）を答えなさい。
- （2）支配獲得時の連結精算表中の空欄A～Dに当てはまる適切な勘定科目または数値を答えなさい。なお、空欄Aは資産の勘定科目であり、空欄Bは純資産の勘定科目である。

設問〔4〕 【商学部会計学科の受験生】

問1 当社は製品Tを製造・販売し、製品原価の計算は単純総合原価計算により行っている。次の資料にもとづいて、(1)先入先出法、(2)平均法のそれぞれの方法により、①月末仕掛品原価、②完成品総合原価、③完成品単位原価を計算しなさい。

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、計算の結果に端数が生じる場合には、円単位で小数第3位を四捨五入して小数第2位まで示すこと（例：計算の結果、円単位で100.555・・・円となった場合、100.56円と答える）。

[資 料]

1. 生産データ（（ ）内の数値は加工進捗度を示す。）

月初仕掛品	200 個	(60%)
当月投入	300	
合 計	500 個	
月末仕掛品	100	(30%)
完 成 品	400 個	

2. 原価データ

	直接材料費	加 工 費
月初仕掛品	35,000 円	12,340 円
当 月 投 入	57,000 円	34,100 円

問2 当年度の変動費率は0.65、年間固定費は7,000,000円であった。変動費率および年間固定費が次年度も当年度と等しいと仮定して、下記の問いに答えなさい。

なお、計算の結果に端数が生じる場合には、円単位で小数第3位を四捨五入して小数第2位まで示すこと（例：計算の結果、円単位で100.555・・・円となった場合、100.56円と答える）。

- (1) 損益分岐点売上高を答えなさい。
- (2) 1,400,000円の営業利益を達成する売上高を答えなさい。
- (3) 売上高が1,000,000円増加した場合、営業利益はいくら増加するか答えなさい。
- (4) 損益分岐点売上高を現在より2,000,000円下げするためには、固定費をいくら削減する必要があるか答えなさい。

解答用紙

設問〔1〕【全受験生】

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

設問〔2〕

問1【商学部経営学科・国際ビジネス学科、国際学部の受験生】

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

問2【全受験生】

A	B	C	D
E	F	G	H

設問〔3〕【商学部会計学科の受験生】

(1)

(単位：円)

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額

(2)

A	B	C	D	E

設問〔4〕

問1【商学部会計学科の受験生】

(単位：円)

	①月末仕掛品原価	②完成品総合原価	③完成品単位原価
(1) 先入先出法			
(2) 平均法			

問2【商学部会計学科の受験生】

(単位：円)

(1)	(2)	(3)	(4)

解答例

設問〔1〕【全受験生】

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)	仮受消費税	580,000	仮払消費税 未払消費税	500,000 80,000
(2)	支払手数料 クレジット売掛金	6,000 294,000	売上	300,000
(3)	未収入金	820,000	土地 固定資産売却益	800,000 20,000
(4)	当座預金	1,600,000	資本金 資本準備金	800,000 800,000
(5)	支払家賃	50,000	前払費用	50,000

設問〔2〕

問1【商学部経営学科・国際ビジネス学科、国際学部の受験生】

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
1	貸倒引当金繰入	20,000	貸倒引当金	20,000
2	仕入 繰越商品	1,250,000 1,500,000	繰越商品 仕入	1,250,000 1,500,000
3	減価償却費	1,104,000	建物減価償却累計額 備品減価償却累計額	240,000 864,000
4	貯蔵品	50,000	通信費	50,000
5	前払費用	120,000	保険料	120,000
6	支払利息	150,000	未払費用	150,000
7	法人税等	481,000	仮払法人税等 未払法人税等	200,000 281,000

問2【全受験生】

A	B	C	D
1,250,000	1,500,000	120,000	450,000
E	F	G	H
20,000	1,104,000	150,000	950,000

設問〔3〕【商学部会計学科の受験生】

(1)

(単位：円)

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
資本金	1,000,000	子会社株式	1,000,000
利益剰余金	100,000	非支配株主持分	330,000
のれん	230,000		

(2)

A	B	C	D	E
のれん	非支配株主持分	230,000	5,000,000	330,000

設問〔4〕

問1【商学部会計学科の受験生】

(単位：円)

	①月末仕掛品原価	②完成品総合原価	③完成品単位原価
(1)先入先出法	22,300	116,140	290.35
(2)平均法	21,640	116,800	292

問2【商学部会計学科の受験生】

(単位：円)

(1)	(2)	(3)	(4)
20,000,000	24,000,000	350,000	700,000